



医師



## 脳卒中になったら!? Time is brain!

第三脳神経外科部長 高須 俊太郎

Time is brain.(タイム・イズ・ブレイン)聞きなれない言葉だと思いますが、Time is money(時は金なり)にかけた言葉で、訳すとすれば「時は脳を助ける」でしょうか。脳卒中になったときは、できるだけ早く治療するのが重要であることをあらわした言葉です。

脳卒中はとても怖い病気です。日本人の死因の第4位で、生存できてもしばしば重い後遺症が残り、寝たきりの原因の第1位になっています。脳卒中には、脳の血管が詰まってしまふ“脳梗塞”、脳の細い血管が切れてしまふ“脳出血”、脳の血管にできたコブ(脳動脈瘤)が破裂する“くも膜下出血”があります。

脳梗塞になると、以下の様な症状が突然起こります。

- ①片方の手や顔面の半分の麻痺
- ②ろれつが回らない、言葉が理解できない
- ③視野の半分が欠ける
- ④身体がふらつく、力が入るが立てない

以前は治療法がないとされていた脳梗塞ですが、現在はt-PAという血栓溶解薬を使うことにより、つまった血管を開通させ、症状を改善させることができます。しかし、この治療法が有効なのはごく一部にすぎません。この薬は脳梗塞が発症してから4時間半以内でないと使えないのです。しかも、治療開始が早いほど症状も改善しやすくなります。時間が経つと脳梗塞が完成して症状は良くなりませんし、薬の副作用で逆に脳出血を起こして症状を悪化させることがあります。

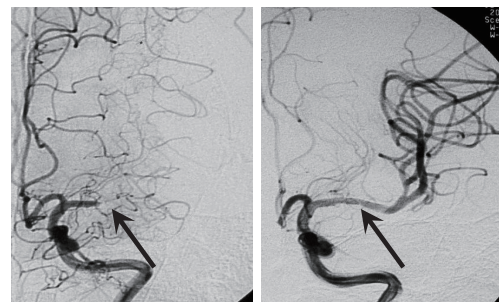
くも膜下出血は、突然の激しい頭痛で起こります。これまで経験したことがない痛みと表現されることが多いです。一旦出血

が止まっても、高率に再出血を起こし生命に危険が及ぶことが多いので、やはりできるだけ早く治療することが大事です。治療がうまくいけば、後遺症なく退院することができます。

当院では6西病棟を脳卒中センターとして、神経内科と脳神経外科が協力して脳卒中の治療にあたっています。脳梗塞の患者さんは神経内科で治療を開始し、可能であればt-PAを投与します。t-PAが効かない場合や、t-PAが使用できない場合は必要に応じて脳神経外科と協力してカテーテルを用いた血栓溶解療法を行います。くも膜下出血、脳出血の患者さんは脳神経外科で治療します。くも膜下出血に対しては状況に応じて、開頭クリッピング術(頭蓋骨を切って直接、脳動脈瘤にクリップをかけます)または血管内コイル塞栓術(カテーテルで動脈瘤の中にコイルを詰めます)を選択して行うことができます。当院では、iPadを用いた画像転送システムを採用していますので、24時間体制で専門医の迅速な診断、治療を行うことができます。

もし、脳卒中を疑う症状が出た場合は、迷わずに救急車を呼んで、病院に来てください。「しばらくすれば治るかも…」と様子を見ることは絶対にやめてください。

Time is Brain!



血栓溶解療法によってつまった血管を再開通させることができます

★「フィリア・レター」は、中部ろうさい病院が、患者さんに向けて当院の現況や新しい医療情報などを発信したり、患者さまの建設的な意見を反映する広場として発行しています。